

令和 8 年度福井工業大学外部評価結果

1. 外部評価の実施概要

福井工業大学外部評価委員会規程に基づき、福井工業大学の教育・研究・社会貢献活動・大学運営等に対する評価及び助言を行うため、外部評価を実施した。

なお、外部評価委員会は令和 7 年 8 月に設置され、学外委員による評価は第 1 回目となる。

令和 8 年度の外部評価委員会は、令和 7 年度福井工業大学における学科・機構の取り組み並びに同大学の教育、研究、社会貢献・地域連携、国際交流等の取り組みがまとめられた報告書の内容等について、第三者の視点からの評価及び助言を得たので以下にまとめる。

2. 外部評価委員の構成（50 音順）

委員長 永 井 二 郎（国立大学法人福井大学 工学部長）
委 員 清 川 肇 （清川メッキ工業株式会社 代表取締役社長）
委 員 長 谷 川 英 一（株式会社福井銀行 頭取）
委 員 鷲 頭 美 央（福井県 副知事）

3. 外部評価委員会の実施日

〔 日 時 〕 令和 8 年 7 月 23 日（木）9 時 30 分から 10 時 40 分
〔 場 所 〕 福井工業大学 FUT タワー3 階 タワー会議室
〔 出席者 〕 永井委員長、清川委員、鷲頭委員
〔 備 考 〕 長谷川委員には書面にて事前質問をご提出いただきました。

4. 外部評価の結果

福井工業大学における教育、研究、社会貢献および地域連携活動等の取り組みは、適切である。

5. 外部評価委員会の意見概要

（1）教育研究活動や学部学科構成

- ▶ 地域とともに成長する大学として、福井の特色や地域性を生かしながら、地域の発展に取り組んでいる点を評価している。
- ▶ 学科構成の中でも、特に宇宙産業分野における人材育成に力を入れている点は将来性が高く、今後のさらなる発展を大いに期待している。

- ▶ 国内の大学で唯一アルテミス計画のプロジェクトに選定され、さらに FUSION プロジェクトにも参画していることを高く評価している。
- ▶ 今後も、宇宙産業を支える人材の育成に一層貢献していくことを期待している。
- ▶ 「福井と宇宙」という発信力が高まっていることを踏まえ、今後は福井工業大学が宇宙研究の第一線で活躍し、その成果を世界や全国に向けて発信するとともに、福井県としても大学と連携しながら、福井における宇宙産業の拠点づくりを担っていきたい。
- ▶ 原子力分野における人材不足は、将来的に深刻な課題となることが懸念される。日本のエネルギー政策の観点からも人材育成は極めて重要であり、福井県としても、人材の確保・育成に向けて連携・支援していきたい。
- ▶ 原子力分野は、福井県にとって大きな強みであり、地域の発展にもつながる重要な分野である。こうした特色ある教育を大学のブランドとしてさらに高め、学生や社会から選ばれる大学となることを期待している。
- ▶ 福井県では、従来の DX から一步進んだ「AI による変革 (AX)」を政策に取り入れ、人口減少をはじめとする地域課題の解決につなげていく必要性を認識している。大学と行政が連携し、AI の社会実装や地域課題の解決に取り組むことで、地域の発展と大学の価値向上の双方につながることを期待している。
- ▶ 時代のニーズに合った学科であることに加え、学科名も志願者数に大きく影響する。従来からの学科名称は、場合によっては古い印象を与え、実際には先端的な教育を行っていても、その魅力が伝わりにくい可能性があるため、学科名称の変更についても検討してはどうか。
- ▶ 原子力分野を担う学科は、福井県にとって不可欠な存在であり、今後のエネルギー情勢を踏まえると、その重要性はさらに高まるものと考えている。
- ▶ 環境分野の学科は、社会的にも重要な役割を担う学科である。定員確保に課題があるものの、今後の人材育成の観点からも、ぜひ存続してほしい。

(2) 入学状況・就職状況の動向・傾向

- ▶ 入学者の約 6 割が県内出身者であり、卒業生の約 4 割が県内に就職していることから、若者の県内定着に大きく貢献している。
- ▶ 女子学生の割合が着実に向上しており、今後さらに女性比率が高まることを期待している。
- ▶ 理系分野における女性人材の育成は、今後ますます重要になる。工業大学における女子学生比率の向上は、地域産業の持続的な発展や地域の未来づくりにもつながる重要な取り組みである。
- ▶ 学生が学科を選ぶ際には、まず学科名に注目し、その上で研究内容や教員を重

視する傾向がある。特に、「この先生のもとで学びたい」と思わせるようなスター教員の存在は、大学の魅力を高め、志願者を引きつける重要な要素である。

- ▶ AIの普及により、今後、さまざまな仕事がAIに置き換わる可能性がある。一方で、経験や技能を必要とする、いわゆる「手に職」の仕事はAIによる代替が難しく、その重要性は今後さらに高まると考えられる。そのため、工学部においては、AIを活用する力を身につけるとともに、実践的な技術や経験を習得することが重要である。「AI時代だからこそ必要とされる専門技術」を学べることを明確に発信することで、工学部のさらなる魅力向上につながることを期待している。

(3) 大学運営体制

- ▶ 大学の魅力を高め、認知度や志願者の増加につなげるためには、大学の特色や強みを効果的に発信するメディア戦略が重要である。

(4) 今後の展望

- ▶ 福井ならではの学びや研究の強みを継続的に発信し、その価値を広く認知してもらうことが、大学のブランド形成につながる。多様な研究分野を有する中でも、全国的に際立つ「唯一無二」の特色を明確に打ち出していくことが重要である。
- ▶ 明確で際立った強みを持つことは、大学全体の評価向上にも寄与する。人口減少に伴い大学間の競争が一層激しくなる中、今後は特色ある大学ブランドをさらに強化していくことが必要である。また、他大学や企業との連携・共同研究を進め、多様な分野で活躍できる人材を輩出してほしい。
- ▶ 「宇宙」や「原子力」といった社会的な注目度の高い分野を福井工業大学の強みとして前面に打ち出し、大学の認知度を全国的に高めていくことが重要である。こうした特色を学ぶことを目的に、全国から学生が集まるような大学を目指すことが望ましい。
- ▶ 大学にとっては、学生の教育や研究に加え、卒業生とのつながりを積極的に活用していくことも重要である。
- ▶ 卒業生のうち経営者をメンバーとする組織を設けることで、社会人のリスキリングや大学と企業をつなぐ役割を担うことができるのではないかと。経営者を通じて社員に学び直しの機会を提供することで、大学で学ぶ社会人の裾野が広がり、大学との新たな接点が生まれるとともに、共同研究や産学連携へと発展する可能性も高まる。
- ▶ 大学が有する世界水準の知識や研究成果を地域企業へ還元することは、企業の価値向上や地域全体の発展にもつながる。そのため、卒業生のネットワーク

を活用し、大学と地域企業との新たな連携を生み出す取り組みについても検討してはどうか。

令和8年10月6日

福井工業大学外部評価委員会

委員長 永井 二郎

委員 清川 肇

委員 長谷川 英一

委員 鷺頭 美央